

耕作放棄地解消のヒントは？

実際に農業に携わる方に、耕作放棄地の解消のヒントを伺いました。



◆鈴鹿農業協同組合受託者部会 会長 杉野農園 杉野吉彦さん

○農家にとっても迷惑

一言で耕作放棄地の解消といっても、これをすれば解決するといった決定的な方法はなく、とても難しい問題です。耕作放棄地

は農家にとっても大きな問題を引き起こします。丹精込めて農作物を作っても、隣の荒れた土地で発生した虫にやられてしまうという被害もあり、なんとかしなければならない問題です。

○「食」の安全性

現在は、放射能汚染問題、食品偽装問題、不

許可農薬使用問題などがあり、いままで以上に「食」の安全性が問われ、安全安心な農作物が求められている時代です。

では、どんな農作物が一番安全で安心か。それは、自分自身が作った農作物です。安全安心な農作物を自分自身がつくることに価値観を見出す新規就農者が増えれば、耕作放棄地を減らす一助になるのではないのでしょうか。

○もうかる仕組みづくり

もうかる農業であれば、だれでも就農すると思います。最近では、農林漁業者が生産だけでなく、食品加工、流通・販売まで行うことで高付加価値化を図り、農林漁業の活性化につなげていこうとする6次産業化が提唱されていますが、そのようなもうかる仕組みづくりをすることで、就農者が増えて耕作放棄地を解消することにつながると思います。

◆ホンダ倶楽部鈴鹿会 菜園同好会

○退職後の原動力に

ホンダ倶楽部とは、本田技研工業株式会社のOB会です。私たちはそのOB会の菜園好きが集まって結成した同好会です。今年で結成6年目を迎え、26人で活動しています。その多くが、退職後に農業に取り組みだしたメンバーです。

月1回、メンバーで集まり、歳は違えども同じ目線で、農作物の作り方を学び合い、切磋琢磨しています。また、年1回、野菜即売会を行い、売上金の一部を市へ寄付したりしています。

工業製品を作るときとは違い、自然相手の農業には「経験、勘、度胸」が大切です。そんなこれまでと違う農業の世界への挑戦が生きがいになっています。

○新たな労働力になろう!

耕作放棄地が増える大きな原因の一つに農業の労働力不足がありますが、私たちのように、退職

後、農業をしたい人はたくさんいると思います。そんな人たちが農業へ参画することで、労働力不足を解消し、ひいては耕作放棄地の解消につながっていくのではないかと思います。

農業をしているおかげで、退職してからも人とのつながりが広がり続けています。一年かけて作物を育てると、会社勤めをしていたときよりも季節と時間を大切に感じます。自然や天候に左右されることが多く、一生勉強です。皆さん農業は面白いですよ。退職後は、農業で人生を謳歌してみませんか。



市民が一丸となって解消

耕作放棄地の解消に向けた今後の方向性について、
鈴鹿市農業委員会 会長 長谷康郎さんにお話を伺いました。

○農業委員会でも大きな課題

私たち農業委員会でも、耕作放棄地の解消と優良農地の確保は、重要な業務として、日々熱意を持って取り組んでいます。市や農協と力を合わせ「対策協議会」を設置し、「検討委員会」では、各界各層のご意見もいただきました。本号の特集で、農業の将来を考えた場合、耕作放棄地の存在が非常に困難な状況を作り出していることが、分かっていただけだと思います。

しかしながら、農業の果たすべき役割は、単に産業として農作物を供給することのみならず、地域の生活環境や景観の維持、洪水や地滑りなどの防止、さらには健康・福祉など、非常に多岐にわたり、本市の発展には、その振興が欠かせません。

わがふるさとの貴重な農地を守っていくには、農家だけが頑張っても実現できません。幸いにも、本市には、技術力があり優秀な企業群、その企業からの退職者、自らさまざまな地域づくりに取り組む市民や団体、農業関連の団体など、農業の振興に貢献できる、豊富な地域資源に恵ま

れています。今こそ、この資源を生かし、幸せな農業生活を送ることができる鈴鹿市にできればと思います。



重機を使って耕作放棄地を再生

○市民の参画で農地を守る

耕作放棄地を解消する手段の一つに、農業人口を増やすことが考えられます。多くの市民が農地を守ることに参加できるよう、農業委員会では、改正農地法の目的とする農地の有効利用を図るため、新たに農業を志す人たちに、農地利用の制限を緩和し、農業や販売も指導する新たな制度の創設に向け、検討を重ねています。

また、利用できる農地や耕作放棄地を広く皆さ



鈴鹿市農業委員会 会長 長谷康郎さん

んにお知らせし、借りたい人と貸したい人との、より良い出会いを作るための「農地情報バンク」も設置することとし、現在、農地パトロールも兼ねて、全市的な農地利用状況調査を実施しています。この調査には、農業委員のほか、市内23地区の地区農業委員会が担当し、総勢207人が携わっています。さらに、委員会に「耕作放棄地対策委員会」を設置し、解消に努めています。



耕作放棄地に種をまく千代崎中学の生徒



コスモス畑に再生

○厳しい状況こそ、好機到来

「ピンチのときこそチャンスあり」と、よく言われます。まさに、農業も今が正念場です。この困難な状況を、農業者、地権者、市民の皆さんと一丸となって乗り越えていきたいと考えています。

そのために、私たち農業委員会の果たすべき役割や責務は、非常に大きいと思います。ぜひ、一緒にこの鈴鹿市の大地を守り、身も心もより豊かな市民生活を送ることができるよう、耕作放棄地の解消に向けて皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。